時60
71

目録

うきぢゐ	せいたゝ
穴中つる	手より水出
かとり人形	昼夜ふき出
うき石	雨
ゆきかみ	海ゆりぬき
海ゆりぶく	海を大きくする
さけ雷	海より魚出
ゆきさけ	海より光出
ドレ	扇
雷	兄
ゆきりん	ざる
水	長
海より火出	海より水出
大きなこ	どゝ
人	大人を小
唐丁	りゝ
水	大人を小
じゝ	ねこ
人	上

水底の玉子ぐそく
水上へ浮上る傳

水の中へ玉子を入るれば
底ふかづむ塩を入
入れいきなり浮くだん
塩多いすくうくるり
これに底ゥ種ゆへ入ふ
ゆへ入れべし

人形を踊らせる傳

みをき汁ぐねを向ふの
ちらさ〜所をを
おぶのむねつけ
場のごとく人形
をさみ自分の
うごくふるごび
人形おどるなり

大石を水ふ
浮うかせる傳

陸ふる石へ
生瑞と
ゆいろうを丈て
ぬるべし　まきゑのごとく形
ゐるゑり水ふ入れべ
溶きあがるゑり

紙ふて鍋をつくる傳

ホトムラ紙ふ
こんふゆくみを
ぬりは角ふ
おりて「ゐべ」の
かっとりふ用ゐべし
水のらぬゐり

俄ふ雷鳴をきうせる傳

桶のうへ水をいっぱい入れその中へせうのうをこのこらふするかくして火をつけてふるをすれば雷のごとくきこえるなり

坐敷へ虹を吹せる傳

極最上の白砂糖をそうー〜たるり手桶いっぱいの水ふひのせて夕日ふ向ひ水ぬ沢きらきらとゆうごちのごとくすべー〜虹あらわれるなり但しさとうを見れべできぬなり

ビこの中より島を出す傳

客ふさへぬやう
小角をうつ
おきヒシを
ゴるゆのづふ

角をしづすべし

即席ふ燒印をかく傳

ヤウサンふ水を
をうしれ
文字をうき
火ふうざせば
燒印のごとく
なること妙あり

手術

天窓より水を吹傳
ときの口ふくの水こを
ときゝゴムをてクダ
をこうら
ゆこすく
つるしく
かせば
水をうるく

焚火の中より鶴を出傳

こんやくを玉をゆりうる
紙ふてつるをおりかるの
くゝふつゝみ火の中へ入れば
鶴だりのこるあり

ビンの中より猫が
飛ぐす傳

猫を股ぐらへうつおき
ビンよりすりてさんせ
猫よき

ぐるぐん
股ぐらより
猫ひぎさせる事

錦繪二色ゑ変化する傳

今ここゑ東京
名所日中の
景色の増繪

これをこうよりて
（コロヲールルコハルトヒ）ゑて
表ゑ裏ゑ表風ゑ新れば
元の日中の景色となる事ゑ
風を除れば夜景となる事ゑ

焼絵を手かるく書法

ホツタアス（西洋絵の具なり）

みて書　繪番

まて火を　附

べし

後れ

みでも

ぬぐ

ぬきるなり

書る文字消て白紙とする傳

焉紙の書を火あぶれ

（アトニタルヒまでこそ）

まぶ　桐のいろうて

ふくもり文字をうけべ

二三日すまると白紙とする

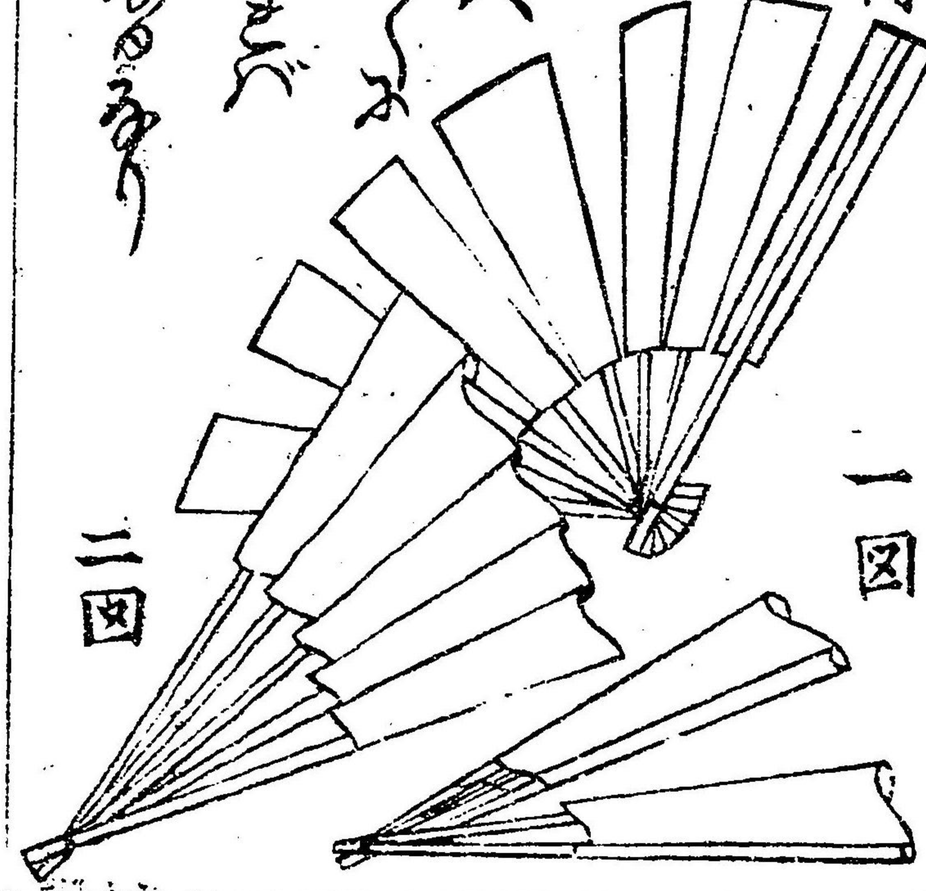
あと妙なりシヤボンの水か

ひとせべ文字のらくるなり

玉子の中より
金魚を出傳
空の玉子と本物の
玉子とすり〻〻図のごとく
金魚をかくし
もちゐるときは金魚を
出すべし

破れ扇の傳

扇を二ツの
図の如く
こしらへ
わければ
ふり
並の扇となる



一図

二図

人の顔を長くみせる傳

剃みすぢをうけ[illegible]ふ

とふすみのやうにみ

耳のれば

人のうしろくらるるり

ざるの中へ水を入る傳

ざるの中へ

ちんぷやく

をぬり

水を入れべし

けつして洩ることあり

大人を小人ふする傳

次の図のごとく

きえ人りのまふ

酔をえうせ

しろの人のまを

まえの人のかさりだて

うしろの人の

又人ぬやうふ大

きな洋服を着

せてテイブールの上ふ

たゝせて見せるゐり

様の小人ふ

又人るゐり

極丈高の傳

これも前のでんぢも同じ〳〵

次の図のごとく一下りの

子供を

一天人の

かたうてたせそのうち長きものを

長せてゆるくゆり陽ぶん

おりしろきゆうかうあり

手の中より水を出す傳

ふぐの水ぐを
ものゐうくしく
れをあつせ
いのるとき水を
ふりぐす
ふり

帽子の中へ
ステッキを入る傳

ステッキを
くぶくらく
シャツポへ
うくりおせバ中へ
そるやうふるとふり

図のごとく
くらくぐ

顔を大きくする傳

ブシカレの花を火中へ
いれその煙り（うけを
うけとべ
大きく
なること
妙あり

頭上より光りを放す傳

（エ斤ヵリゴローケカリ）を
下七ツ皮の上へ
のせをぬぐひみ
つみゆるまで
のせ首を
ふれい光りを
たすあり

兎雷の傳

ちゞめ味噌をもとせなきこゝロ[illegible]かゝりとすりこ
ちの角へリウサをいれ
うきまはせば雷の如く
鳴り光りを現すこと

壁火より水を出す傳

あらかくだいへゴムまそ
くぐを仕ケふぐの
水ぐすりをひさの口へ
ちくしおすべし

大蛸をひんの中へ入る傳

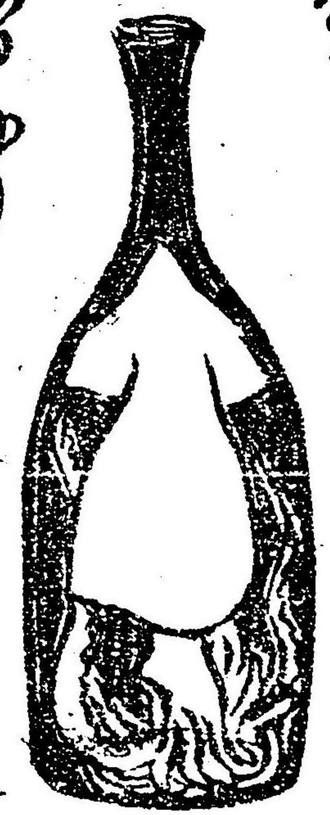
ゐる蛸をよくかゝしてゆさくらゆ

どこの中へいれて水をいれふやして

水をあけるあり

鳥賊ふり

ふしぎふ



大きくゐるあり

すゝもで消ふをるふり

ビンのなかゝもでゝ

庖丁を噛くぐく傳

庖丁の鑄形をうらく

（アレチモニユムノをとる）

鑄がたをぎこみ

研ゆげれば本

ものく庖丁とはへる

これをかくくぶ（傳十次）

るり

御届明治八年十二月十二日

編輯兼出板人　横山良八梓

池端仲町通り
スキヤ町十二番地

特60
71

076450-000-5

特60-71

西洋手術

横山 良八／刊

M18
CEQ-0219

特60

71